

令和2年度第5回大野市環境保全対策審議会の概要

日 時 令和3年2月26日(金)

午後7時00分～午後8時50分

場 所 結とびあ 3階 305号室

1. 会長あいさつ

2. 議 事

(1) 第三期大野市環境基本計画の策定について

①第三期計画(案)に係るパブリックコメントの結果(案)について

②第三期計画(案)について

事務局より、資料01及び資料02に基づき説明。委員から受けた意見や指摘事項等を踏まえた修正案を事務局にて作成し、意見等の反映状況などについて審議会会長の確認を受けた後、計画最終(案)とすることとされた。

委員からの意見等は次のとおり。

<計画全体に関すること>

○委員 : 「検討」という言葉は後ろ向きな意味で読み取られることもあるので、「推進」や「促進」のような前向きな言葉に変えた方がよいのではないか。

→事務局 : 県主催の協議会に市が参画するものなどについては、現状に合わせて「検討する」という表現としたい。市民と事業者の取り組みにおいては、設備投資など費用負担を伴う取り組みなどは、「検討」あるいは「努める」といった表現のままとしたい。その他の箇所については、修正が必要かどうか考えさせていただきたい。

<基本目標①「自然との共生社会の形成」について>

○委員 : パブリックコメント結果(案)のNo.6について。イトヨは北海道では「害魚」として扱われている一方で、本願清水は陸封型イトヨの生息地の南限として国の天然記念物に指定されている。このことは大野市民が誇れることであり、そウイったことも含めて計画性をもって啓発に取り組んでいただきたい。

→事務局 : 生物多様性に関するご意見だと考えている。ご指摘の点も含めて取り組んでまいります。

○委員 : 数値目標②「イトヨの里の入館者数」は、10年間で2,000人の増加を見込んでいるが、目標値としては少ないのでは。国の天然記念物は大野の観光資源としても一級品だと考える。道の駅「越前おおの荒島の郷」の開駅に併せて大野の観光などを大々的にPRしている中、道の駅と連動させるなど利用者数を増やす施策は多くあるように思う。

→事務局 : 第六次総合計画においても同様の数値目標を設定しており、整合性をとる必要があることから、計画案のとおりとしたい。5年後の中間見直しの中で、入館者数の推移を確認し、再検討させていただきたい。

○委員 : 新しく道の駅「越前おおの荒島の郷」を活用していくことは、基本目標①の令和12年

度に向けた目標の1つと関係する面があると思う。「道の駅荒島の郷」という言葉を用いた目標に修正してはどうか。

→事務局：道の駅荒島の里は今後の大野市にとって重要な施設であり、第三期環境基本計画に記載の計画を進めるうえでも重要な施設である。ご指摘のとおり、令和12年に向けた目標の中に、重要な施設として位置付けるような表現を検討したい。

<基本目標②「低炭素社会の実現」について>

○委員：数値目標③として、ゼロカーボン施設の数を令和7年に3施設、令和12年までに5施設という目標を立てているが、対象となる施設はすでに選定済みなのか。

→事務局：具体的な施設については決まっていない。重油ボイラーを使用しているなどCO₂排出量が多い施設の設備更新時期などに合わせて、脱炭素化を図った施設改修をしていけばと考えている。また、新たに整備する施設については、脱炭素を念頭に置いて整備していく方針である。これらによって10年間で5つの施設において脱炭素化させることを目標に掲げている。

<基本目標③「資源循環型社会の構築」について>

○委員：パブリックコメント結果（案）のNo.9の意見に対する「回答（市の考え方）」のとおりの文言を計画本文に掲載するよう修正しては。

→事務局：委員ご指摘の形で修正を検討したい。

○委員：食品ロス削減の数値目標の様に、プラスチックごみ削減について数値目標が掲げられていなかったことが残念に思う。なぜ、数値目標が設定されていないのか。

→事務局：プラスチックごみの削減については、取り組みは進めていくが、分別回収の方法など国や県による指針が定まっていない状況の中で、数値目標を定めることが難しく、今回の計画への記載を見送っている。

<その他、今後、計画を進めていく上でのアドバイス等>

○委員：市、市民、事業者が一体となって取り組んでいく必要があると思う。

○委員：この計画を読めば今後の取り組みが市民に分かっていただけだと思う。

○委員：計画に沿って、実施できるかどうか。今後は、進捗状況など市民に公表して、市民に伝わるような情報開示をしていただきたい。

○委員：今回の計画に記載の市民、事業者の取り組みは、行政が市民に求めるものであって、市民主体的な部分がまだ低いのではと感じる。今回の基本計画に記載の施策が市民に浸透していき、市民の環境力がアップしていき、新しいアクションが生まれ、5年後の見直し時には市民の言葉として、市民が求める取り組みが計画に書かれていることを期待する。

○委員：県内他市の市議会においてタブレットを導入しペーパーレス化を図ったという新聞記事を読んだ。大野市でも今後取り組んでいただければと思う。

○委員：令和2年は野外焼却が多かった。周りの人もやっているという事もあり、野外焼却は違法であるという認識が低いと感じるので、チラシ等の配布なども検討されてはと思う。

○委員：環境美化など、一人一人が大事な自然を守っていくということを市民の方々に浸透していくと、ポイ捨てされた路地のごみなど、なくなっていくのではないかと思う。

○委員：一市民として、食品ロスやポイ捨てされた空き缶などごみのことには日々関わっている。今後は、環境問題について、周囲の人たちと話をしていきたいと思う。

○アドバイザー：県では、県廃棄物処理計画の改訂を進めている中で、今後も県と市町が一体となって廃棄物の減量とリサイクルの推進を進めていこうと考えている。その中でも、フードドライブを県内全域で取り組みを拡大していきたいと考えているので協力をお願いしたい。また県では、マイボトル運動を昨年度から取り組んでいる。紙コップやプラスチックコップなど、できるだけ使い捨ての容器を使わずにごみを減らすという取り組みです。県民が取り組みやすい活動だと考えているので、市町や各市町の団体も取り組み拡大にご協力をお願いしたい。

○アドバイザー：昨年11月に県と大野市が共同でスポーツ GOMI 拾い大会を開催したところコロナ禍であったにもかかわらず100名を超える皆様に参加いただいた。美しい自然環境のある大野市であるので、環境意識の高い土地柄なのかなと感じている。来年度については、大野市を含めた九頭竜川流域において清掃活動を予定している。皆様の力を借りながら実施していきたいので、協力をお願いしたい。

○アドバイザー：ゼロカーボンやSDGsに対する取り組みなどを検討し、計画に盛り込まれていることをありがたく思っている。2050年カーボンニュートラル（脱炭素）に向けて地域の再生可能エネルギーの導入や、大野市であればエコドライブなどによるCO₂排出量を減らしていく取り組みなど必要かと思う。単なる我慢大会ではなく、地域の経済と両立する形で進められることを期待している。

(2) 越前おおの環境基本計画 令和元年度年次報告書（案）について

- ・事務局より、資料「令和元年度越前おおの環境基本計画年次報告書（案）」に基づき説明。
- ・委員からの意見は特になく、報告書（案）のとおり、公表手続きを進めることとなった。

(3) その他 なし

3. その他

次の2点を事務局より報告

①大野市ゼロカーボンシティ宣言について

②「(仮称) 福井 大野・池田ウインドファーム事業」に係る環境アセスメントの実施状況について

4. 副会長あいさつ